

各位

一般財団法人日本語教育振興協会
理事長 加藤 早苗

令和8年度日本語学校教育研究大会の開催について(ご案内)

当協会の事業運営につきましては、日頃多大の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
このたび、本大会を別紙1の実施要項により開催することといたしました。つきましては、ぜひ多数の方にご参加いただきたく以下の通りご案内いたします。

記

プログラム等詳細については、令和8年度日本語学校教育研究大会 web サイト
< <https://kenkyutaiikai.wixsite.com/website> >でもご覧いただけますのでぜひご覧ください。

参加をご希望の方は、以下のいずれかの方法でお申し込みください。

1) 1人ずつ手続可能・クレジットカード決済

大会 web サイト < <https://kenkyutaiikai.wixsite.com/website> >

2) 1人~10人まで手続可能・銀行振込

Google フォーム < <https://forms.gle/rjsWwZN8efwgNti19> >

申込締切日 2026年7月27日(月)

※申込多数の場合は締切日より前に受付を終了することがございますので、
予めご承知おきください。

(添付資料)

- 別紙1 大会実施要項
- 2 大会趣旨
- 3 大会日程
- 4 事務連絡

問合せ先 事業部 小野寺陽子

TEL 03-6380-6557

FAX 03-6380-6587

Eメール nisshinkyo2@gmail.com

HP <https://www.nisshinkyo.org/>

令和 8 年度日本語学校教育研究大会実施要項

1 趣旨

一般財団法人日本語教育振興協会維持会員機関に勤務する教職員等を対象として、日本語学校教育のより一層の充実並びに日本語教育機関としての社会的地位の確立を目指し、各機関で展開されている豊かな教育実践を機関を超えて共有することを通して教職員の資質の向上を図ります。

2 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟・センター棟
東京都渋谷区代々木神園町 3-1

3 日程

8月10日（月）

時間	プログラム
10:00-10:30	開会挨拶・大会趣旨説明
10:30-12:10	講演
12:30-14:30	ポスター発表・デモンストレーション
14:30-16:00	講演
16:10-17:40	パネルセッション
18:00-	交流会（要別途参加申込・参加費）

8月11日（火・祝）

時間	プログラム
10:00-12:00	分科会
12:00-	協賛団体ブース出展（14:00 終了）
13:30-15:45	自由研究発表

※日程等は変更になる可能性があります。ご了承ください。

大会終了後、一部プログラムのアーカイブ配信を予定しております。詳細につきましては、終了後あらためてご案内申し上げます。

4 参加資格等

- (1) 一般財団法人日本語教育振興協会維持会員機関に勤務する教職員、その他関心のある者とします。
- (2) 1機関から多数の教職員が参加していただいて差し支えありません。ただし、定員を超える場合は、お断りする場合がありますのでお含みおきください。

5 参加費

※（税込）/1人当たり

	参加費	8/10 交流会費
維持会員	5,500円	5,500円
賛助会員	6,600円	
その他の教育機関、個人	7,700円	

＜令和 8 年度日本語学校教育研究大会趣旨＞

大会テーマ『日本語学校の新たなステージへ—ともにつくる持続可能な未来—』

大会委員長 佐々木 渉（学校法人石川学園横浜デザイン学院）

令和 8 年度の研究会テーマは「日本語学校の新たなステージへ—ともにつくる持続可能な未来—」といたしました。認定日本語教育機関や登録日本語教員の制度が開始して 2 年が経ちました。今、私たちは目の前の認定法だけでなく、その先を見据えるという「新たなステージ」に立っています。このステージの先に、私たちはどのような未来を描けるでしょうか。それはきっと、日本語学校がこれまでの枠を越え、企業や地域、社会「ともに」つくっていく持続可能な未来ではないかと思えます。その実現には、広く外へ発信していくことが不可欠です。また、次代を担う若手教員へバトンを渡し、キャリアを支援する転換期にも差し掛かっています。研究会が実践を発信し、教師の成長を促す場になることを目指しております。

大会一日目の午前には、2 本の講演を予定しております。まず、文部科学省日本語教育課から「日本語教育施策の動向」についてお話しいたします。その後、出入国在留管理庁政策課から「育成就労制度における日本語能力向上のための施策」についてお話しいたします。昼休憩の時間には 25 件のポスター発表とデモンストレーションを行います。午後は基調講演とパネルディスカッションを予定しております。基調講演は、一橋大学の太田浩先生をお招きし、世界の留学生市場の現状や語学学校事情、日本の留学生政策や今後の課題、日本語学校と外部機関との連携などについてお話しいたします。それを踏まえたパネルディスカッションでは、留学・就労・生活分野の第一人者をお招きし、各分野における現状や課題をご報告いただいた上で、持続可能な日本語教育に必要なことや今後の分野を横断した連携の可能性などについて議論していただきます。

二日目の午前には、3 つの分科会を予定しております。1 つ目は「日本語教育の参照枠」の分科会で、武蔵野大学の神吉宇一先生をお招きし、参照枠に教師がどのように向き合うかについてお話しいたします。2 つ目は「評価」に関する分科会で、アクラス日本語教育研究所の嶋田和子先生に講師をしていただき、評価を教師と学習者でどのように共有していくかについてのレクチャーとグループワークを行います。3 つ目は「教員」に関する分科会で、カイ日本語スクールの山本弘子先生と東北大学の二子石優先生にお越しいたいただき、これからの日本語学校の役割や教師のキャリアプランについて講義とグループディスカッションを行います。午後は、12 件の自由研究発表を予定しており、実に幅広い領域の意欲的な発表ばかりです。

令和 7 年度の研究会のテーマは「今こそみんなの教育実践を共有しよう」でしたが、自由研究発表・ポスター発表・デモンストレーションの応募数が過去最多となりました。昨年にまいた種が今年度、確実に芽吹いています。日々の業務の中ではやるべきことが山積し、今後不安を抱える方もおられるかもしれませんが、本大会が未来を照らす光となり、皆様の力が湧き出る場となることを心より願っております。

令和 8 年度日本語学校教育研究大会日程

- 1 日目 2026 年 8 月 10 日(月) 講演・パネルディスカッション・ポスター発表・デモンストレーション等
2 日目 2026 年 8 月 11 日(火・祝) 分科会・自由研究発表等

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟・センター棟

テーマ:日本語学校の新たなステージへ ともにつくる持続可能な未来

1 日目(8 月 10 日)

9:20~ 受付

カルチャー棟 1F 小ホール(定員 330 人)

10:00~10:30	開会挨拶 一般財団法人日本語教育振興協会理事長 加藤早苗 来賓挨拶 大会趣旨説明 大会委員長 佐々木 渉(学校法人石川学園横浜デザイン学院 日本語研究科学科長)
10:30~11:20	講演 「文部科学省の日本語教育施策の動向」(事前質問受付 7/27 迄) 文部科学省総合教育政策局日本語教育課長 降旗友宏
11:30~12:10	講演 「育成就労制度における日本語能力向上のための施策」 出入国在留管理庁政策課補佐官 青柳晶子(事前質問受付 7/27 迄)

カルチャー棟 1F 展示スペース・小ホールホワイエ

12:30~14:30	ポスター発表・デモンストレーション ※発表テーマ・発表者については次頁を参照してください。
-------------	--

昼休憩(食堂等について)

時間帯やセンターの利用状況によりカフェテリア『ふじ』(センター2F ランチタイム 11:30~13:30(ラストオーダー13:15)) は混み合う可能性があります。コンビニエンスストア(宿泊D棟1階 交流プラザ横)やイートインスペース(カルチャー棟 2F)もありますのでご利用ください。

カルチャー棟 1F 小ホール

14:30~16:00	基調講演 太田浩(一橋大学全学共通教育センター 教授)
16:10~17:40	パネルディスカッション「『ともに創る』社会に向けて、日本語学校は何ができるか ―分野横断で語り合うこれからの日本語教育―」 仙田武司(公益財団法人しまね国際センター 事務局次長) 長山和夫(一般財団法人日本国際協力センター 事務局上席主幹) 加藤早苗(一般財団法人日本語教育振興協会 理事長)

18:00~ 交流会

国際交流棟 1F レセプションホール(定員 150 人)

12:30～14:30

カルチャー棟 1F 展示スペース・小ホールホワイエ

＜ポスター発表＞

1. 日本語学校における管理運営業務の可視化と部署編成の実践—アン・ランゲージ・スクール成増校における業務平準化の取り組み— 安中浩美(アン・ランゲージ・スクール成増校)
2. CEFR-CV「仲介」の観点から見る日本語学校上級クラスの協働学習—若者の生き方を通じた「農業の未来」への対話と認識の再構築に着目して— 寺浦久仁香(イーストウエスト日本語学校)
3. 日本語学習者は戦争の何をどう受け止めたか—戦争をめぐる3つのトピック・実践に焦点化して— 川嶋麻祐子・萩原秀樹(インターカルト日本語学校)
4. 「多言語を楽しむ絵本」～豊かな言語を共有するために～ 宮原晶子(インターカルト日本語学校)
5. 孤島からの打開—小規模日本語学校発の自己研鑽・越境共有プラットフォームの設計と試行錯誤 山本泰輔(AFC 国際学院)
6. 主任教員研修におけるネットワーク形成の実態とその意義—受講後のつながりに着目して— 澤井美智子(大阪みなみ日本語学校)、内田さつき(コミュニカ学院)、戸川朝子(南大阪国際語学学校)
7. 学生は「よい学校」をどう語るか—フューチャー・ランゲージ作成の試み— 平賀結花(上山学院日本語学校)
8. 言語ポートレートによる複言語能力の可視化と内省—日本語学校生と大学生の相互理解プログラム構築に向けて— 渋谷博子(クリエイティブ日本語学校)、清水由貴子(聖心女子大学)
9. NEJにおける「飽きさせない朗唱」の実践共有—学習者への負荷に基づく活動の体系化と教師間連携の試み— 山田靖幸・小村志保美・植木真弓・新谷葉菜(コミュニカ学院)
10. 漢字を楽しくするための実践 長田萌実(静岡日本語学院)
11. 点から線へつなげる—個別の地域活動と教室実践を結びつける試み— 花田紘美・佐々木峻太・佐野彩・神村レナ・飯島沙綾・菅原慎一(新世界語学院)
12. 初任日本語教師の態度涵養にケース学習は援用できるか—省察と「経験の枠」の観点から— 鷹野恵(筑紫女学園大学)、香月裕介(神戸学院大学)、水戸貴久(立命館アジア太平洋大学)
13. 日本語教育の参照枠に基づいた作文評価ルーブリックの作成、実践報告 高木菜央・高橋いくみ(浜松日本語学院)
14. スマホで始める ICT 授業～ICT を活用したアンケート調査型発表授業の実践～ 栗本久美・山本愛海・橘奨悟(平成医療学園専門学校)
15. 認知機能トレーニングから生まれる気づき—書字能力の向上をめざして— 佐野真弓・加藤淳(ミッドリーム日本語学校)
16. 対話を通して社会とつながる—交流授業に見られた学生の自己変容— 杜瑞凌・戸川朝子(南大阪国際語学学校)
17. 日本語学校における教師の「自己ふりかえりシート」の実践 室屋博(ユニタス日本語学校言語研究所)
18. 留学生に対する地域での防災教育について 山本佐知子(和歌山医療スポーツ専門学校)

<デモンストレーション>

<p>1. 生成 AI を活用した統合型日本語学習プラットフォームの開発と実践—教師の負担軽減と学習者の個別最適化を目指して— 伊藤裕(アジア日本語学院)、家守里佳(合同会社 mo' o Links)</p>
<p>2. 台湾の中等教育における「使える・感じる・つながる日本語」の実践——七タイイベントを通じた協働学習と自己表現活動—— 謝京子(台湾 新北市立淡水商工職業学校)、東平福美(鳥取大学)、出野由紀子(ヤマザキ動物看護大学)</p>
<p>3. みんなのロールプレイ(多人数によるロールプレイの試み) 西川格(東京昭和国際学院)</p>
<p>4. 交流活動の全体像を可視化する「異文化間交流活動テンプレート」—教育機関同士の協働の促進を目指して 古田梨乃(新潟大学)、島由佳(鹿児島高校)、中川健司(横浜国立大学)</p>
<p>5. 日本語能力試験(JLPT)「合格対策講座」における学習可視化と反復学習支援の実践—「学習専用機」、「合格 MY スケジュール」及び「学習チェック表」を用いたデモンストレーション— 早瀬麻紀夫・近藤伸彦・村上誠・佐久間弘基(株式会社日建学院)</p>
<p>6. 生成 AI による日本語教育用アプリ・ツールの開発 今井新悟(合同会社 Logos)</p>
<p>7. 教師の「教えるににくい」に言語研究と AI で応える—社会言語能力・語用能力の教育支援 AI ツール 山下夏輝</p>

2 日目(8 月 11 日)
9:20～ 受付

2 日目のみ参加の方は、101 室前の受付(9:30～)にお越しください。
1 日目に受付がお済みの方は、直接各会場へお越しください。
会場により収容定員が異なります。定員に達した場合、ご入場いただけないことがありますので予めご承知おきください。

センター棟

10:00～12:00	分科会Ⅰ 参照枠 101 室(定員 180 人) 「参照枠と教師の主体性について」(仮) 神吉宇一(武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科 教授)
	分科会Ⅱ 評価 102 室(定員 120 人) 「適切な評価を実現するために」(仮) 嶋田和子(一般社団法人アクラス日本語教育研究所 代表理事)
	分科会Ⅲ 教員 311 室(定員 80 人) 「日本語学校の役割、教師のキャリアプラン」(仮) 二子石優(東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任准教授) 山本弘子(カイ日本語スクール 代表)

協賛団体紹介ブース

センター棟 310 室

12:00～14:00	(株)アルク、EduTechJapan(株)、(株)国書刊行会、(株)コスモピア、(株)サーティファイ、(株)スリーエーネットワーク、(株)清光教育総合研究所、(株)凡人社
-------------	--

12:30～14:30

センター棟 101 室/102 室/311 室/402 室

自由研究発表

※発表時間は各 35 分間

時間帯(13:30～14:05 / 14:20～14:55 / 15:10～15:45)及び教室は決定次第ご案内します。

1. 日本語口頭能力の自己評価の変化—会話アプリを用いた教室外の会話練習の効果— 山下康太・坂本正(愛知国際学院)
2. 実践授業「偏見、差別、ことば」—差別を他人事にしない授業と教師を目指して— 萩原秀樹(インターカルト日本語学校)
3. 物語の力:心に残る素材を提供する—能動的に「読み」を楽しむための—提案— 折原有実(インターカルト日本語学校)
4. 大学での実践を通して考える 日本語学校における「学習を自ら管理する能力」の育成 倉本文子(カイ日本語スクール)
5. 日本語学校における教職員向け防災研修の必要性—教職員全体で取り組む防災研修の 検討— 前田和則(熊本国際日本語学校)
6. 認定日本語教育機関の申請の課題と対応～自律学習の促進と客観的評価の構築を中心に～ 今井新悟(合同会社 Logos)
7. 日本語学校教員は、誰と、どのような発信を行ってきたか— 日本語教育学会「交流ひろ ば」出展の調査から — 内田さつき(コミュニカ学院)、中川健司(横浜国立大学)、古田梨乃(新潟大学)、平山允子 (日本学生支援機構東京日本語教育センター)
8. 地域連携型交流における「受け入れ側の学び」 羅漢・谷川恵・中島佳那子(東北大学工学部インターナショナルオフィス)、ベルガスジャス ティン・中尾優美子(公益財団法人仙台観光国際協会)

9. 留学生の進路選択と進学準備の実態—2025 年度「日本留学 Awards」アンケート結果から見える支援課題— 山本弘子(カイ日本語スクール)、伊藤裕(アジア日本語学院)、亀田美保(大阪 YMCA 日本語教育センター)、前田純代(サム教育学院)、神恵介(新世界語学院)、高島蔵人(早稲田 EDU 日本語学校)
10. 上級日本語学習者の生成 AI 活用による作文への影響と教師評価に関する探索的研究 渡辺玲奈(浜松日本語学院)
11. 教育実習受入れは教員研修になりうるか—担当教員の学びに着目して— 戸川朝子(南大阪国際語学学校)
12. 高校生との交流授業における留学生の役割と変容 堀口典子・佐々木渉(学校法人石川学園横浜デザイン学院)

15:45 終了

※なお、日程については当日一部変更になることがあります。

令和8年度日本語学校教育研究大会 事務連絡

I 大会 web サイトについて

プログラムや資料、動画配信等の情報は、
大会 web サイト<<https://kenkyutaiikai.wixsite.com/website>>にてご案内いたします。

II 参加申込みについて

○以下のいずれかの方法でお申し込みください。

1人ずつ クレジットカード決済	大会 web サイト https://kenkyutaiikai.wixsite.com/website
----------------------------	---

【！】支払いはクレジットカード決済のみ。

・1度の手続きにつき1人分のみお申し込みできます。2人目以降のお申し込みは、再度チケットを購入してお申し込みください。お支払いを確認後、大会 web サイト参加者専用ページへの招待メールをお送りします。

1人～10人まで 銀行振込	Google フォーム https://forms.gle/rjsWwZN8efwgNti19
--------------------------	--

【！】支払いは銀行振込のみ。

- ・振込手数料は参加者または各所属機関でご負担願います。
- ・参加費は、事前振込です。参加申込み受付後、3日以内(土日祝日除く)に、当協会から受付番号・参加費金額・入金期限・振込先口座等が記載されたメールをお送りしますので銀行振込にてお支払いください。お支払いを確認後、大会 web サイト参加者専用ページへの招待メールをお送りします。
- ・10人までまとめてお申し込みができます。11人目以降のお申し込みは、再度フォームにアクセスしてお申し込みください。
- ・領収書の発行はいたしません。銀行の発行する振込金受領書をご利用ください。

○申込締切 2026年7月27日(月)

※会場参加・交流会について、申込多数の場合は締切日より前に受付を終了することがございますので、予めご承知おきください。

○参加費

※(税込)/1人当たり

	参加費	8/10 交流会
維持会員	5,500円	5,500円
賛助会員	6,600円	
その他の教育機関、個人	7,700円	

- ・参加の有無に関わらず、参加費ご入金後の返金はできませんのでご注意ください。
- ・銀行振込の場合、振込手数料は参加者または各所属機関でご負担願います。

Ⅲ ご参加に際しての注意事項

本大会の録音、録画は禁止します。

大会 web サイト参加者専用ページログイン情報等を参加者以外に共有すること、参加者以外の方が大会プログラムに参加することは禁止いたします。

Ⅳ 大会予稿集について

予稿集及び各プログラムの資料は、大会 web サイト参加者専用ページからダウンロード(PDF)ができます。公開時期等は随時ご案内いたします。